

2019年度 沖質詳明資料

2020年2月14日

株式会社太陽工機

(証券コード:6164)











売上高

108.9 億円 前期比 + 12.0 %

営業利益

17.8 億円 前期比 + 6.7 %

営業利益率

16.4% 前期比 △ 0.8 p

売上高・営業利益:過去最高額を更新

受注高

69.6 億円 前期比 △ **45.3** %

- **▶** 半導体、ロボット、自動車関連企業で設備投資への慎重姿勢が顕著
- ▶ 自動機・システム機比率向上により1台あたり受注金額増(前期比 +11.5%)

年間配当

1株あたり 50円 (6期連続増配)

1株あたり年間配当 前期比+10円



過去最高の売上高、利益を更新

(* ==m)	通期(1-12月)		おおし
(百万円)	2018年12月期	2019年12月期	前期比
受 注 高	12,740	6,969	△ 45.3%
売 上 高	9,723	10,894	+ 12.0%
営 業 利 益	1,669	1,782	+ 6.7%
営業利益率	17.2%	16.4%	△ 0.8p
経常利益	1,660	1,788	+ 7.7%
当期純利益	1,157	1,226	+ 6.0%

生産能力増強にともなうコスト増を 価値提案営業による利益改善で吸収

(単位:百万円)

+195

△200

+165

販売数量等の増加

機種構成変動、価値 提案の推進(大型 機、自動機・システム機の増加) 生産能力の増強 (人件費、組立 外注費) \triangle 47

変動費・諸経費増加

1,782

1,669

2018年12月期 営業利益 2019年12月期 営業利益

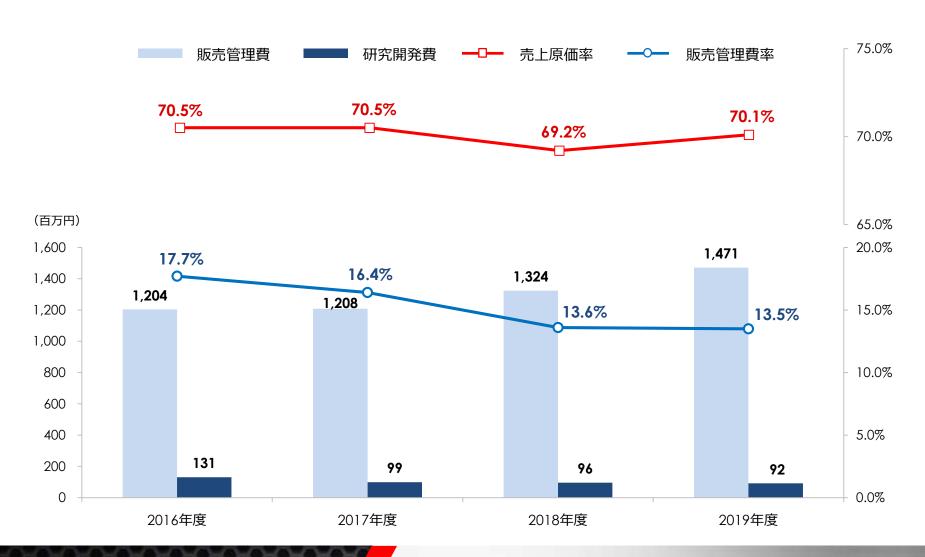


第4四半期は四半期別では過去最高の売上高





売上原価率・販売管理費率は同水準で推移





増収増益により財務基盤充実

(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	12月31日	増減
資産の部			
流動資産	6,007	6,483	476
現金及び預金	386	1,445	1059
売掛金	2,228	2,560	331
棚卸資産	2,633	2,424	△ 208
前渡金	7	_	△ 7
前払費用	45	44	△ 1
関係会社短期貸付金	700	_	△ 700
その他流動資産	5	7	2
固定資産	1,260	1,331	71
建物	531	503	△ 27
土地	297	312	15
その他有形固定資産	177	255	78
無形固定資産	46	56	10
長期前払費用	54	38	△ 15
繰延税金資産	96	105	8
敷金及び保証金	56	57	0
投資その他資産	0	1	1
資産合計	7,267	7,814	547

(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	12月31日	増減
負債純資産の部			
流動負債	1,939	1,156	△ 783
買掛金	460	259	△ 201
リース債務	484	72	△ 411
未払金	196	201	4
未払費用	101	110	9
未払法人税等	388	329	△ 58
前受金	103	27	△ 75
製品保証引当金	89	67	△ 21
役員賞与引当金	_	_	_
その他流動負債	116	87	△ 28
固定負債	0	371	371
リース債務	0	342	342
長期未払金	0	28	28
純資産	5,327	6,286	959
株主資本	5,327	6,286	959
負債純資産合計	7,267	7,814	547

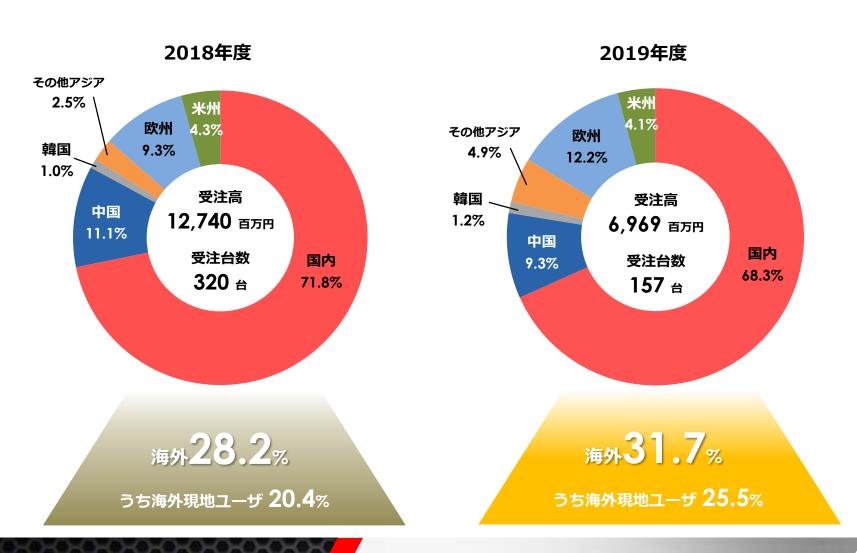


設備投資需要は調整局面



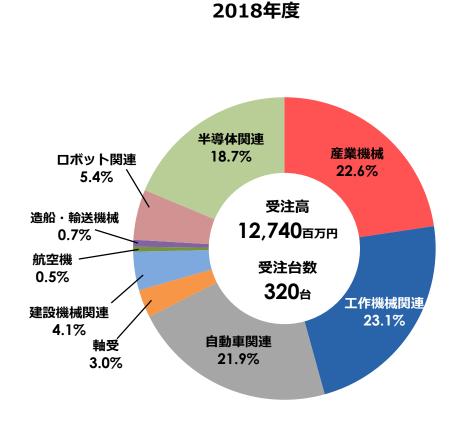


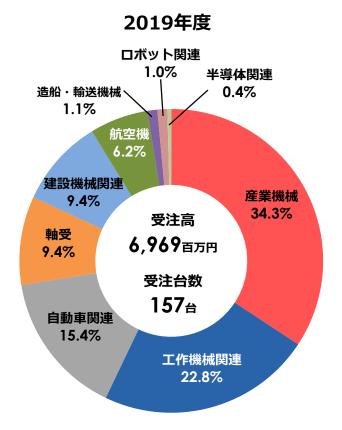
海外受注比率は上昇





半導体・ロボットの減少が大きく、自動車も第3四半期以降厳しい状況





※本開示より「産業機械」に含めていた「ロボット関連」と「半導体関連」を独立して表示



Next plans

2020年度 通期計画

12

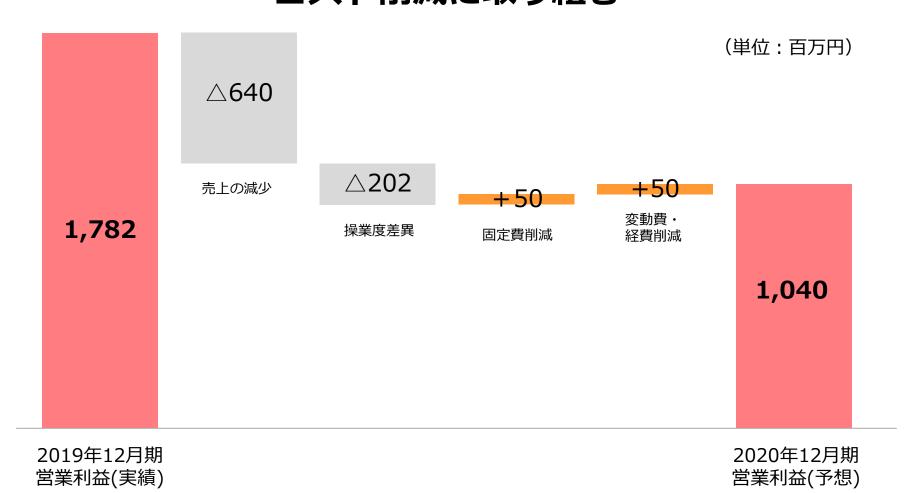


前期の受注減少が響き減収減益を見込む 受注は回復を期待

(百万円)	2019年12月期 実績	2020年12月期 計画	前期比
	6,969	8,000	+14.8%
売 上 高	10,894	8,800	△19.2%
営 業 利 益	1,782	1,040	△41.6%
営業利益率	16.4%	11.8%	△4.6p
経常利益	1,788	1,030	△42.4%
当 期 純 利 益	1,226	680	△44.5%



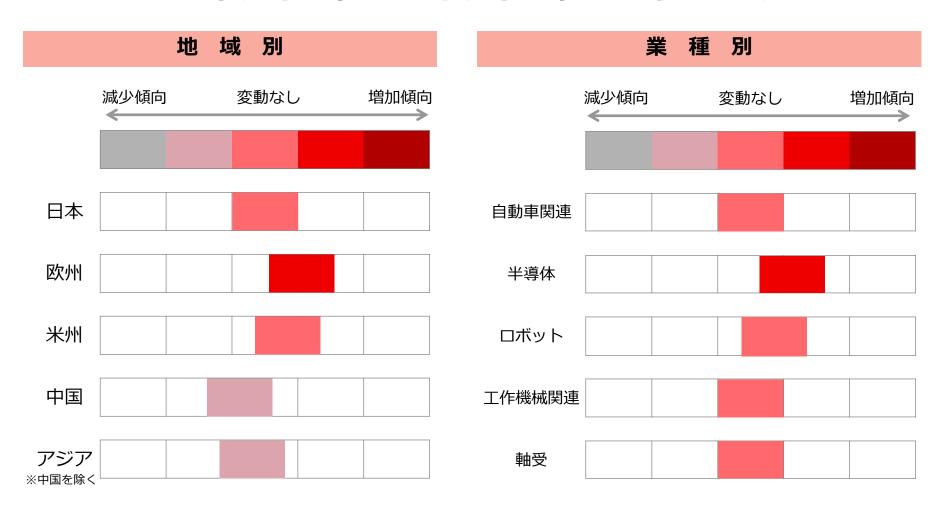
売上減少により営業利益減となる予想 コスト削減に取り組む



14

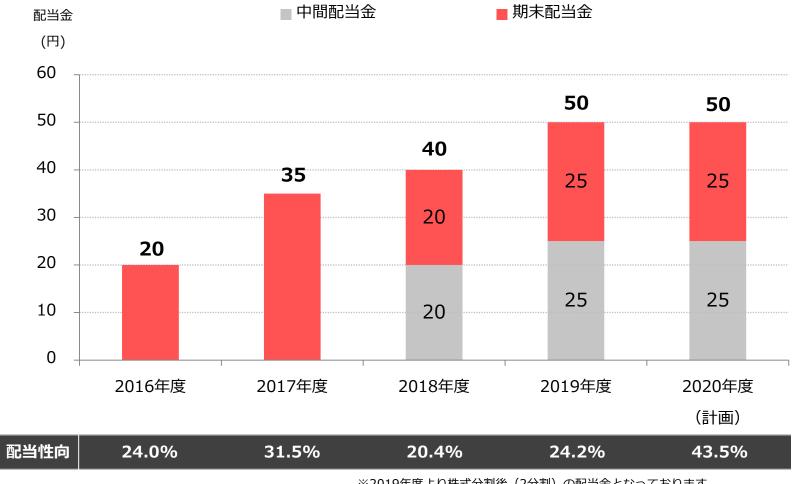


欧米、半導体・ロボットに需要回復の兆し



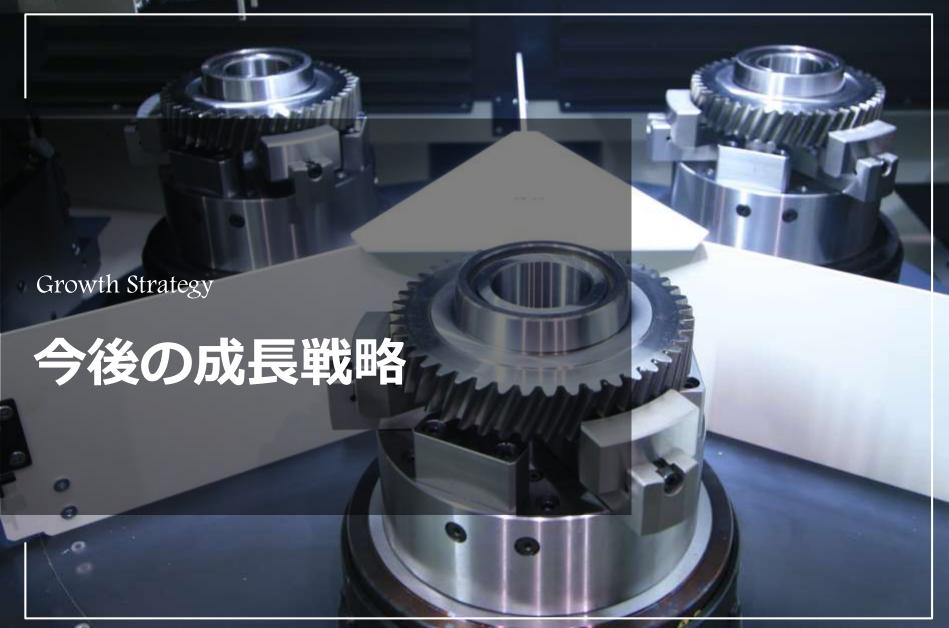
※ いずれも2020年度の当社受注予想 (2019年度実績と比較)

安定的な配当と持続的な増配を目指す



※2019年度より株式分割後(2分割)の配当金となっております

※2018年度以前の数値は各期を比較しやすいよう、株式分割後の金額にて記載しています







営業力の強化



製品開発力

海外展開強化

- 海外におけるブランドカ、知名度のアップ
- 営業、サービス体制の強化
- サービス・パーツ売上増加と保守部品の整備

自動化・システム化対応・共通化による

製品開発とコスト低減

- 自動化オプションを拡大し販売単価アップ
- ユニット・部品共通化によるコスト低減

生産能力の増強

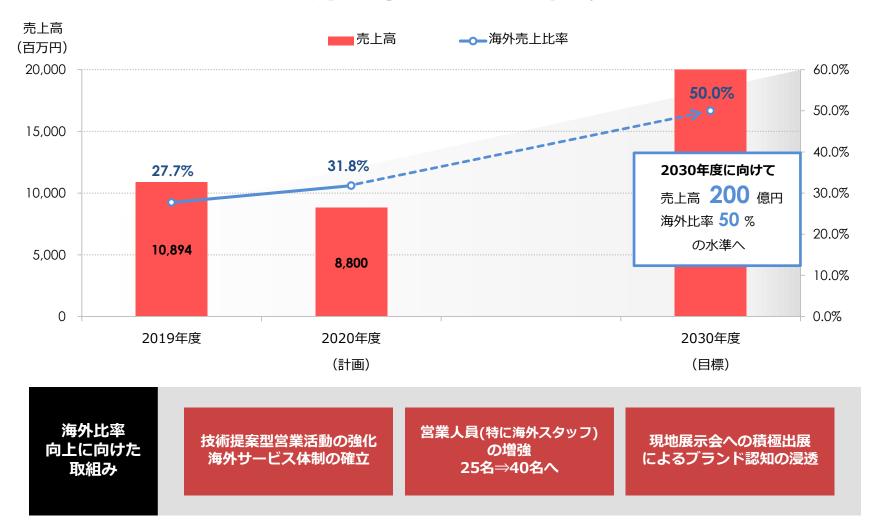
- 新工場の建設
- 優秀な人材の採用
- 人材育成、スキルアップ

新規市場の開拓

- マーケティング強化による競合他社との差別化
- 新機種の開発



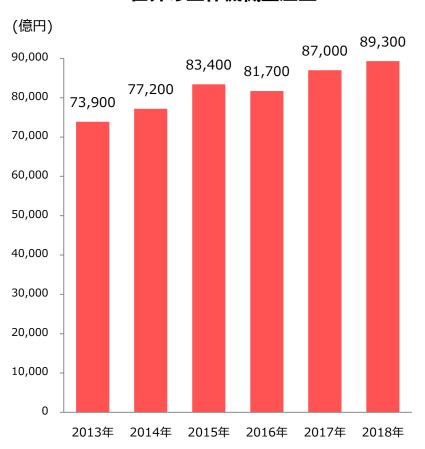
海外比率50%を目指す



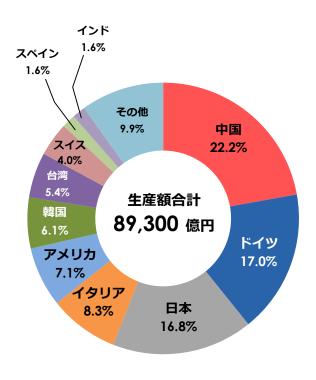


世界の工作機械の市場規模は9兆円弱

世界の工作機械生産量



工作機械の国別生産量(2018年)



※ 1 Euro=¥121で換算 出典:いずれもVDW / Oxford Economics



世界の工作機械主要マーケットは 中国・米州・欧州

■ 中国

生産額・輸入額が世界首位。中国全体では国内投資が 生産を上回っているため、輸入需要が大きい

■ 米州

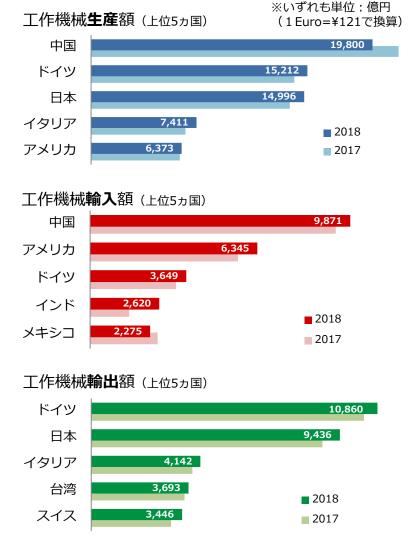
特に米国の生産は航空宇宙産業に集中しており、民生 用の工作機械は輸入需要が見込まれる (輸入額は世界 第2位)

■ 欧州

ドイツを中心に生産額・輸出額が多い市場であるが、 輸入額でも世界3位のドイツを筆頭にボリューム(※) が大きい

※ドイツ以下の輸入額 6位 イタリア 1,931億円 7位 ベルギー 1,432億円

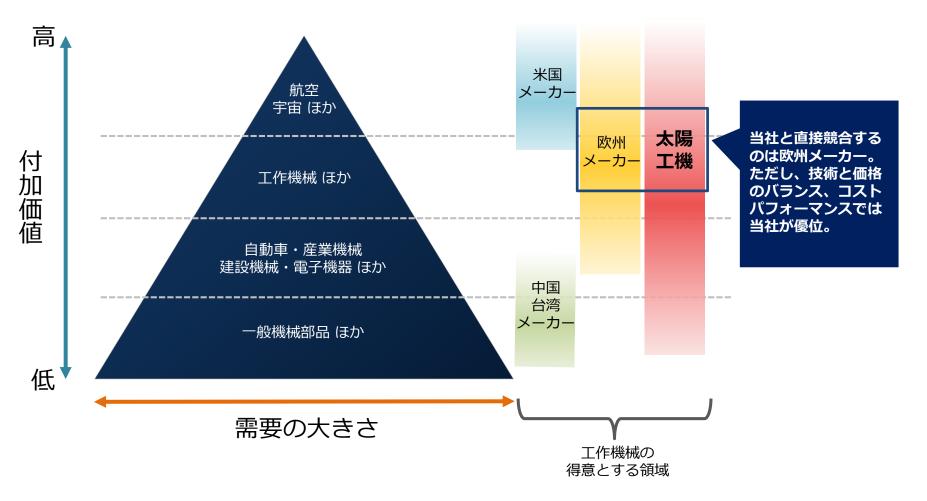
10位 フランス 1,231億円



出典: VDW / Oxford Economics



当社が狙うマーケットは主に欧州メーカーと競合



出所:日本工作機械工業会資料をもとに当社作成



当社製品の市場規模は3,000億円~5,000億円を想定

日本の工作機械市場規模

約1.5兆円

※(社)日本工作機械工業会「受注統計」における 2015~2019年度の平均受注額

このうち当社製品が属する 研削盤市場は

3~6%程度(※)

450億~900億円程度

※(社)日本工作機械工業会「受注統計」における 「その他NC研削盤」と「NC円筒研削盤」の合計額が 占める割合 世界の工作機械市場規模

約9兆円弱

※出所: VDW / Oxford Economics

研削盤市場の占める割合が 日本と同程度と想定した場合、 当社製品が属する市場規模は

> 3,000億円弱~ 5,000億円強程度

当社がシェア獲得を図る市場



欧州・米州・中国市場を中心に販売・サービス体制を強化

太陽工機 ヨーロッパ

所在地:ドイツ・ビーレフェルト 人 員: DMG森精機当計専任スタッフ3名 (営業・技術・サービス各1名)

欧州

DMG森精機の現地社員を当社担当者 として専任化し、密に連携。実績を 伸ばしている。自動機・システム機 への要望が多く、レベルの高い営業 対応が求められる。



DMG森精機と連携し現地企業に拡販へ

- 海外営業部の人員を中心に、営業部門の人員を増員 (現在25名 ⇒ 今後40名体制へ)
- 現地駐在員・技術スタッフによる技術提案型営業活動の強化
- サービススタッフ駐在による海外サービス体制の確立
- 現地展示会への積極出展によるブランド認知の浸透

本計丁場

太陽工機 中国

所在地:上海

人 員: 当社スタッフ3名

(営業2名・サービス1名)

中国

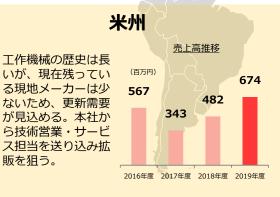
製造業の大規模化や技術 力の向上に伴い、研削盤 の需要が年々高まってい る。建設機械の需要が多 い一方、自動機・システ ム機の需要が少ない。顧 客の特徴やニーズに合わ せた新規開拓や製品提案 を行っている。



太陽工機 USA

所在地:シカゴ

人 員: 当社スタッフ2名(営業1名・サービス1名)、 DMG森精機当社専任営業スタッフ1名



世界大手航空機エンジンメーカーへの参入

太陽工機



アプローチ

航空機工ンジンメーカー

タービンブレードをはじめ とした大型ワークについて、 加工精度や作業効率に課題



タービンブレード

立形研削盤の導入

販売ルート

設備納入

太陽工機

国内外の 部品 メーカー

部品納入

世界大手 航空機 エンジン メーカー

当社立形研削盤のアドバンテージ

複合加工

複数工程のワンチャック加工により、高精度な複合加工を実現。内/外径・端面の同時加工で直角度・同軸度・真円度を高精度化

スペース

従来の横形研削盤に比べて 機械幅が狭まることで、フロアスペースを大幅に削減

作業時間の短縮

大型ワーク加工工程を省力化。 工程集約により加工ワークの 載せ替えが不要となるため、 作業時間が短縮できる

価格

欧州メーカーと比べ、高い コストパフォーマンス

設備納入



国内外の展示会に継続出展し認知度向上を図る

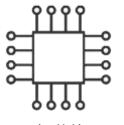
2020年度 展示会出展情報	開催期間
Grind Tec 2020 (ドイツ)	3/18~3/21
㈱東陽 展示会 Solution Fair 2020 (刈谷)	3/5~3/6
㈱共和工機 プライベートショー(沼津)	3/26~3/27
DMG森精機㈱ 伊賀 イノベーションデー 2020(伊賀)	5/19~5/23
Robot Technology Japan (常滑)	7/2~7/4
(株)太陽工機 プライベートショー 2020(長岡)	7/9~7/10予定
IMTS 2020 (アメリカ)	9/14~9/19
AMB 2020 (ドイツ)	9/15~9/19
METALEX 2020 (タイ)	11/18~11/21
JIMTOF 2020(東京)	12/7~12/12

成長産業とコア産業に注力

ユーザ業種別 受注金額



成長産業





半導体

ロボット

半導体とロボットは、2018年度後半から2019年度にかけて受注が減少しているものの、中長期的な成長産業であることは変わらず。2020年度以降は、スマートフォンやIoTの通信に用いられる次世代通信規格「5G」に関連した需要の盛り上がりが期待されることから、より積極的な営業活動に注力していく。

コア産業



自動車

主力販売先である自動車関連の受注は、 2019年下期に落ち込みが見受けられる一 方、回復の兆しも現れつつある。業界動 向を注視しながら、受注獲得に向けて対 応していく。

自動車業界に支持される開発力

自動車業界のニーズ

工程集約化サイクルタイムの短縮省スペース

最先端の 自動化システム

複雑な機構を コンパクトな 機械に収める技術

内/外径・端面の同時加工 を可能とし、プロセスイノ ベーション。直角度・同軸 度・真円度を高精度化。 自動化システムを 独自開発

太陽工機の対応



- 2004年~専用機として開発
- ターンテーブルにより、1台の機械で 段取り+内径加工+外径加工の3工程を同時に実施

標準化



- PGV-3
- ・ 2016年開発
- ・ 自動車など小径ワークの加工

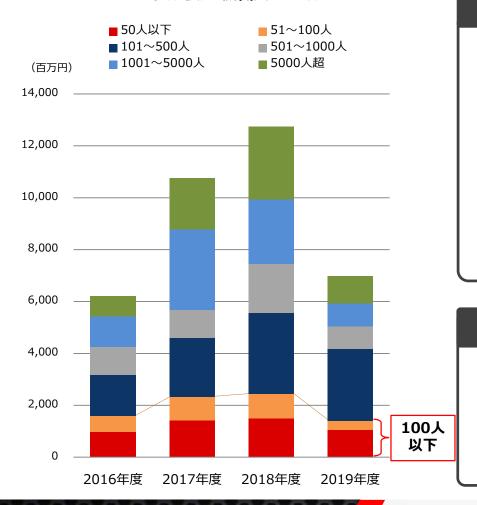


- PGV-2
- 現在開発中
- ・ ターンテーブル数を減らした普及機



従業員数100人以下の中小メーカーを積極開拓

ユーザ規模別 機械受注金額



中小メーカー向け

- 中小メーカーは**人材不足**等を背景に、作業工程の集約化・省スペース 化のニーズが高まっている。特に 100人以下の企業は顕著
- このニーズに対応できるコストパ フォーマンスが高い立形複合研削盤 「Vertical Mate®」シリーズを、 積極的に訴求。新規開拓を図る
- 「Vertical Mate® 85」 顧客二一ズに応じて、より高単価・ 高機能の**八イエンド機種**も積極的な 営業活動を行う

大手メーカー向け

- お客様のニーズに的確な対応を行い、生産効率アップを図れるよう**自動化オプションなどの提案型営業**に注力
- 既存機のリニューアルをタイムリーに実行し、顧客 ニーズをキャッチアップ



横形研削盤も自動化の要望が増加

自動機・システム機の割合



具体的な対応

- 自動パレット交換システムの標準オプション化
 - **⇒** CVGシリーズ
- NC円テーブルによる自動芯出システムの拡販
 - NVGHシリーズ
- 極限まで省スペースを追求したスマート・ロボット・システムの提案
 - **■** USGシリーズ
- ローダ/ストッカ装置の機種横断的な仕様共通化
 - → 小型機・横形機
- 遠隔から機械診断が可能なリモートメンテナンスサービスの提案
 - 全機種

増え続ける自動機・システム機の二一ズに積極的に対応しながら、 標準オプション化を進めることで

販売単価20%アップ、コスト5%低減を目指す





将来の需要拡大を見据えた 生産体制構築へ準備

- 現工場の生産能力は年間約120億円(約300台)
- 新工場は2倍以上の年間約250億円レベルの生産 能力を見据える
- 土地の取得は第1期分を2020年中、第2期分を 2021年中に行う予定
- 工場の建設は、景気動向を見ながら時期を決定 (現時点では未決定)

取得予定用地面積:105,000㎡(約31,800坪)

- 1期土地取得 61,800㎡(約6割)
- 2期土地取得 43,100m (約4割)



人員の拡充

営業部門を中心に継続的に人員を増強

営業部門

- 海外営業を中心に毎年5名以上 の増員予定
- DMG森精機との連携を強化。 即戦力の人材確保を推進

採用

- 新卒の採用計画は、毎年10名程度
- 中途採用も積極的に優秀な人材を 確保
- 学歴・国籍・性別等にとらわれない 幅広い採用活動を行い、優秀な人材 の獲得を図る

技術・製造部門

- 生産能力の増強を目的として、 2030年までに1.5~2倍に増員
- 技術部門は毎年採用枠を確保。 技術伝承を行い、お客様に最適 なソリューションを提供できる 技術者を育成する

育成

- 育成期間の中で個人の特性を 見ながら適した部門に配属
- ジョブローテーションを<mark>通じて</mark> スキルアップを促す

ご清聴ありがとうございました。

TAIYO KOKI

IRに関する お問い合わせ先 株式会社太陽工機 管理部

TEL: 0258-42-8808 URL: http://www.taiyokoki.com



【将来予測について】

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断及び仮定に基づいております。今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、不確定性及び変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ▶為替相場の変動
- ▶当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- ▶タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- ▶当社が営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ

【お取り扱い上のご注意】

本資料は、当社をご理解いただくために作成したのもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。